

びふか

議会

です、こんにちは。

2010/11 第75号

第9回住民自治福祉大会
10月17日 (COM100)



第3回 定例会
委員会レポート
私からのメッセージ

2-3P
8P
10P

手打ちそば美漬のようす

この議会広報誌は再生紙を使用しています

▶発行/美深町議会 ▶編集/議会広報編集調査特別委員会 ▶098-2252 北海道中川郡美深町字西町18番地 TEL01656-2-1651 ▶印刷/南美深印刷

第2回定例会

9月13日～15日

一般会計、他6特別会計で

6,048万4千円の補正予算を可決

平成22年第3回定例会は、9月13日から15日までの日程で開催され、工事請負契約の締結1件、22年度一般会計補正予算(第4号)、各特別会計(第1号)6件、発委第2号会議規則の一部改正、意見書案2件が原案可決され、21年度各会計決算の認定は決算審査特別委員会を設置し付託され、議員派遣、閉会中の所管事務調査3件が承認された。

工事請負契約

内容 ウルベシ橋下部工事、既存改体、上部下部(橋台2基・橋脚1基) 新設工事、(橋台2基・橋脚1基) 護岸工連節ブロック864㎡

質問 当初予算1億3、200万円が8千800万円、一部の工事は残すとしているが22年度で完了できるか何う。施設グループ主幹 この工事請負費は当

初1億3、220万円を計上していたが、国の事業仕分けにより減額となり、補正を含め、今年度の下部工事については完了する予定。

補正予算

▽一般会計補正予算

5,361万1千円を追加し総額43億5、398万6千円となった。

主な内容 地域づくり総合交付金道補助を受けアスパラ結束機導入。年末に向け商店街活

性化プレミアム商品券発行補助金、国庫補助事業ウルベシ橋下部工事の追加。

質問 バス待合所は建物解体後、プレハブの待合所が設置されているが、土地・建物の取り扱い、また新設待合所の設置管理等は。生活環境グループ主幹 現在のバス待合所は土地は個人の所有、建

物はバス会社でのリースで実施、今回の補正での建物は町で準備、土地、建物などの管理はバス会社で行なう。

質問 北児童館の備品購入費、解体費、周辺の環境整備などについて何う。教育次長 防球ネット・テーパー・キャビネット・ロッカー・パソコン等。

給湯関係では冷蔵庫・洗濯機など。外周については植樹をしながら環境を守っていく。

質問 アスパラ自動結束機整備事業補助金が845万円計上されているが導入に当たっての理由を何う。農業グループ主幹 現在アスパラの集出荷は100gの結束で生食用として出荷されている。

手作業で結束していることから今回導入をすることとした。

質問 有害鳥獣駆除補正10万5千円、鹿15頭、1頭当たり7千円が計上されているが、近隣の1頭当たりの金額を何う。生活環境グループ主幹 本町は鹿1頭当たり7千円であるが、管内の町村では3万円・1万円・4千円という状況。



名士バス管理の待合室

質問 商工会50周年補

助金32万7千円、商店街活性化事業補助金1千万円の要請があったその経緯を伺う。

商工観光グループ主幹

50周年事業補助金は記念誌の発行及び記念式典、商店街視察などに計上。

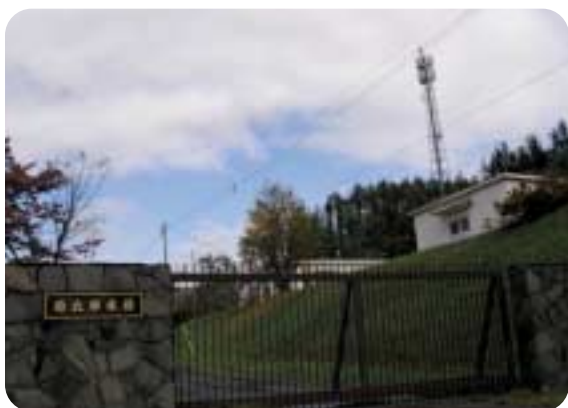
商店街活性化補助は過去2回のプレミアム商品券発行し効果が出ているので、年末に向けて3回目のプレミアム商品券を発行する。

▽特別会計補正予算

美深町水道事業特別会計補正予算は委託料等で252万2千円を減額し総額7、663万8千円となった。

質問 水道事業全体計画策定委託については、

288万円の減額となっているが、この要因は、施設グループ主幹当初予算、750万円の設計費が、500万円ほどとなったことから250万円の減、委託費の単価が下がっているのも要因となる。



水道事業全体計画で菊丘浄水場はどうなる

条例一部改正

▼条例の一部改正

議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

一般選挙による議員の改選後に初めて招集される初議会前の議員懇談会が議員活動として位置づけられ、全員協議会に出席したとき、または公務のため管外へ旅行したときは、その旅行に対して費用を弁償することに条例が改正された。

美深町議会議事規則の一部改正

改選後の初議会前の議員懇談会は議会運営等について協議・調整されるもので、地方自治法の一部改正を受け、全員協議会が法律上に位置づけられたものと同様に、議会活動として位置づける条項が改正された。

決算審査特別委員会

11月4・5・8日

平成21年度の各会計決算委員会が、11月4・5・8日（今泉常夫委員長）に開催されます。

わが町の財布から出ていったお金がどのようになっているのかな？
町民の皆様の傍聴をお待ちしています。

第3回臨時議会

8月9日

児童館改築工事請負契約 一般会計補正予算を可決

第3回臨時議会は平成22年8月9日開催され、工事請負契約の締結1件・補正予算1件について審議され、いずれも原案可決した。

主な内容

- ▼工事請負契約の締結
児童館改築工事を契約金7、655万円で
工期は平成23年1月31日。
- ▼一般会計補正予算
補正予算第3号は、普通地方交付税及び臨時財政対策債の算定結果により増額されたの

- ▼工事概要
構造規模 木造平屋建
延床面積 271・1㎡
建築面積 317・5㎡
- ・道路整備事業工事請負 3、340万円
- ・道路新設改良工事 3、000万円
- ・上川北部消防事務組合負担金 152万9千円
- ・公共土木施設災害復旧工事請負費 1、700万円

- ・特別養護老人ホーム入浴施設改修工事 3、200万円
- ・鳥獣被害防止対策 20万円

（3）びふか議会ですこんには 第75号 平成22年(2010)11月号

質 問



小口英治 議員

- 1 新たな排雪場所の進捗状況について
- 2 空き店舗及び空家の安全性について
- 3 「命のカプセル」緊急時情報カードの取組みについて

問 どうする駅東側の雪捨て場

答 来年の降雪期までに最大限に努力

質問 現状の雪捨て場は、いろいろ課題があるが、代替地等どのように考えているか。

町長 新たな候補地の所有者と協議を開始しつつあるが、美深道路に予定地が隣接しているので道路の進捗状況と絡んで関係機関との協議も必要。

質問 美深道路の完成年度が不透明な中だが来年からは、新設地の理解でよいか。

町長 道路用地が同意確定した段階から来年に向け早急に協議する。



融雪時期の駅東側雪捨て場

問 空き店舗、空家の安全性は

答 事故のないよう継続的に対応

質問 空き店舗及び空家の安全性について、過去の質問で個人の財産なので踏み込めない旨の答弁があるが、地方応援プログラムに危険老朽空家対策事業を組み入れたら、景観条例で空家が美観を損なうとしている条例も全国にはあり、住民から申し入れを受けての苦情処理だけでよいのか。

町長 条例によってある意味、強制力を含む内容の提案だが空家対策で助成金も条例化し、増改築等充分ではないが、手を打ちつつある。トタン飛散等で事故等心配な部分もあるが、権限を持った監督官庁と協議し町として暇庇がないよう、努力する。

問 高齢化の中での「命のカプセル」の必要性は

答 一定の方向性が出た段階で

質問 75歳以上が977人でその内、独居が303人いる状況、緊急通報装置も70数台設置の現状で、緊急時に必要な情報等（筒状の物に情報が入っている、冷蔵庫保管）がすぐ在れば、救急隊員などに役立つので、設置が必要と思うが。

町長 町としては緊急通報システムで対応しているが、情報の共有が可能か消防・民生委員・町内会等とも検討し、可能かどうかの議論が必要。



緊急時のための「命のカプセル」

般



倉兼政彦 議員

- 1 まちづくり推進事業について
- 2 観光ルートの交通安全対策について

問 水源の里全国会議の成果は

答 国内外に情報を発信

質問 水源の里シンポジウムなど今年は、大きな会議が当町で開かれたが、その成果とまちの活性化に向けた取り組みの考えは。

また、仁宇布地区は、今や若者が定着し、全国に例の無い地域と思う、過疎化が進む我が町活性化の一助となるのでは。

町長 事業を通して上川北部三町村の協力により、同一地域生活圏内の各業種の垣根を越え共同歩調で踏み出す事ができ、国内外に情報を発信する事ができ、また、多くの来町者による経済効果もあったと思う。

仁宇布、恩根内地区は、産業おこしも含め

ての大事な要素を持っており、自ら気運づくりの最中で一層の努力をしたい。

問 職員研修の充実を

答 類似町村に比して充実

質問 5年間に亘る職員の自主研修について所管調査をしたところ、職務命令をもって受けさせるべき研修も含まれている。

本来、自主研修は町の活性化に向けての視聞を広める事が目的であり、職務上必要とする研修は職務命令で行うべきものでは。

町長 職員の能力アップを目的とする研修に



多くの人が訪れる函岳山頂

問 交通安全対策が欠落

答 年次予算措置で

質問 函岳や松山湿原には町外から多くの観光客が訪れるが、案内標識の破損などルートの交通安全対策が欠落しており対応が必要。

また、松山湿原の熊出没情報への対策は。

町長 交通安全対策のための案内標識について欠落など、一部は措置を進めており、年次予算措置も考えたい。

熊対策は、注意喚起の看板設置をして音の出る物の携帯や複数者での登山など自助努力をお願いしている。



松山案内、そろそろ取替えては

質 問



諸岡 勇 議員

- 1 自治基本条例を制定すべきでないか
- 2 地球温暖化防止対策を伺う

問 永続的に自治基本条例が必要

答 自治の活性化を高めて

質問 町長、議員は町民の直接選挙、2元代表制で選ばれている。

町長は、独任制の機関として、特性をいかして町政執行がされ、住み良い暮らし易い町づくりの永続制を守るには自治基本条例を制定すべき。

第5次総合計画策定の審議は、各界各層に周知協議がされている条例の制定の決議機関、議会の議決、また審議会等協議機関まで条例制定で行うべき。各種計画についても具体的構想、策定、実施に至るまで基本条例で周知方法を示せないか伺う。

町長 自治基本条例は平成13年ニセコ町で施行されているが、条例を基本条例と言うかたちで街づくりの機運を高める、自治の活性化を図るに一朝一夕に出来ない難しい事。意思の調整、雰囲気づくりが大事で基本の

町民一人ひとりが街づくりの意識の高まりの中、条例の必要性を共通認識として議論出来れば良いのではないかと今の段階で考えている。

第5次総計では、基本構想・基本計画を議会、審議会ともに相談をしており住民主体の街づくりを基本に執行するのが基本的な考え。各種計画の周知方法策定について踏み込んだ考えは、今はない。



まちづくりを語り合う新生コミセン

問 地球温暖化防止の対応は

答 アンケートはビジョン策定に

質問 地球温暖化が心配されるが国、道からの指示事項は。

町長 町行政で今実施の防止対策、新エネルギーのアンケート集約分析の取り扱いと対応は、町側で考えられる構想素案はどう展開するか。

町長 国から平成10年に成立した地球温暖化推進に関する法律に基づき、公共団体事業者と国民が一体で対策を推進し、地方公共団体は温室効果ガス排出を



省エネタイプの街路灯

削減し、住民活動の促進の場提供、道からも防止条例を町と連携し、平成18年に美深町CO2排出量削減計画で環境に優しい製品購入、燃料電気削減で省資源・省エネルギーの促進や廃棄物の減量、リサイクルの推進、街路灯省エネ、低燃料費車両導入に取り組んでいる。

新エネルギーの町民アンケートは、町民の考え意見やビジョン策定に向ける。



南 和 博 議員

般

- 1 今年度の農業政策の効果と課題について
- 2 美深道路建設工事の進捗状況諸問題について



熊のワナ

問 鳥獣被害は減少したか

答 シカ被害は大きく減少

質問 鳥獣被害対策の効果と課題をいかに考えているのか。

また、今年の高温多雨の異常気象の中、主産物である力ボチャの収量減が著しく、畜産農家との交換耕作や輪作体系維持の支援策が必要ではないのか。さらに初冬まき小麦の生産振興策について伺う。

町長 シカ対策として114箇所115キロにわたって電気柵を敷設し、生産者からはほとんど被害がないと聞いているが、未敷設地区に出没しており新年度においても引き続き対応したい。

また、捕獲頭数も83頭を数え、その処理作業について課題が残る新年度に向けて関係機関協議していきたい。大事なことは絶対数の抑制であり町村会を通じて抜本的な被害対策を道・国に対して訴えているところ。

耕畜連携・輪作体系の支援策については、今年の農業は異常気象のなかでも圃場整備や土作りに努力している農家が被害が少ないことを見れば、異常気象



ハルユタカ調製の麦乾センター

に耐えうる土づくりの支援を今後も取り組み、営農持続可能な農業政策を確立したい。

初冬まき小麦については、21年作付けは74ha、22年は135ha、生産農家も28戸の見込み。

今年の異常気象の影響で全量規格外となり、栽培プロジェクトチームと連携し技術向上対策に取り組む。

問 完成時期は

答 完成年次も遅れる

町長 諸条件の整ったところから事業を進めているが、少し遅れていた用地の買収が、本格的に契約に取り組んでいるところで当初24年供用開始としていたが、完成年次は遅れるとだけ開発局から聞いている。

信号設置は順番待ちの状況、8線交差点の倉庫を解体するなど安全策は講じているが、今後道路管理者（土現）に安全対策を申し入れていく。

イベント会場については、町民大運動会は会場を変更したが、冬のイベントについては関係組織と十分に協議し判断時期が遅れないよう対応したい。

質問 美深道路建設に伴う道道680号線・通称東2号線の交通量の増加により交通事故の多発に対応して交差点の景観整備が進められてはいるが、横断歩道・信号機の設置の動きは。

また農村部の交差点においても更なる安全対策が必要ではないのか。

さらに、道路に隣接するイベント会場の変更についての考え方は。

委員会 レポート

こんなことを
調査しました

総務住民常任委員会

7月30日調査

職員自主研修事業 支援状況

この事業は、職員自らが課題をもって自主的に取り組む研修事業の推進を支援して、職員の資質向上と地方分権時代対応の担い手となる職員の育成を目的に、平成17年4月から実施している。

①研修期間 概ね2年以内。

②研修事業への支援（負担金交付）
負担金の額は旅費の他、必要と認める経費（食糧費を除く）の3分の2以内の額。

③実態と成果
成果を数値に表すこ

とは大変難しいが、これまでの5年間で延べ46件101人が本事業を利用して利用している。

○調査のまとめ
研修内容では保健師、栄養士等専門職の研修が約60%を占め課題解決の技術向上につながっているが、これらの中に当然職務命令で対応すべき研修もあることから、今後は本来の目的を生かした職員の自主研修事業の推進を期待したい。

シカ駆除対策状況

本町の平成22年度シカ捕獲数は、7月28日現在77頭で前年度捕獲数(44頭)と比較して1.75倍に達している。

①捕獲実施の流れ
農業者（営農集団）、または農協からの要請に応じて、町からの捕獲指示を受けた猟友会会員がシカを捕獲。

有害鳥獣捕獲期間中のシカ（死骸）の処置は原則として農業者等

が搬送し、ごみ処分場において埋立処理を行っている。

○調査のまとめ
シカの個体数の増加に対し狩猟従事者の人材不足、高齢化等、更に捕獲後の搬送体制（人員、車両の確保）、また死骸の一時保管、運搬などに課題ある。



シカの埋立処分状況を視察

産業教育常任委員会

7月27日調査

仁宇布小中学校、 山村留学施設状況

▽仁宇布小中学校教育施設

本校舎は昭和42年に補強コンクリートブロック造で建設され、その後、平成15・16・20・21年の4回に亘り補修修繕が行われている。

○調査のまとめ
コンクリートブロック造りについては耐震の基準は無いが、耐震診断では2階部分、特に床の亀裂が著しく改修も大変難しい状況から、対応協議を早急に進める必要がある。

▽山村留学施設（ホスターホーム）運営

この施設は町の承認のもとに山村留学制度を導入の中で、仁宇布地区山村留学推進協議会が運営して20年目を迎えている。

○調査のまとめ

留学生は現在までに250人を超え、今後とも継続していく計画を踏まえれば、校舎等の改修も考慮すべき課題もある。

体育施設及び 児童施設状況

▽施設の利用状況

①町民体育館
（開館日数273日）
アリーナ（競技場）

21、413人
小体育 2、728人
トレーニング室
4、360人

②町民プール

（開放日数106日）
幼・小中学生346人
高校生 2、974人
一般 1、140人

○調査のまとめ

体育館は平成21年に改修が行われたが、利用面で苦情ある事から、今後の点検に注意を注ぐべきである。

北児童館改築工事の 進捗状況

本工事は7月27日に入札が行われ、平成23年1月に完成予定。

○調査のまとめ

屋根は無落雪構造設計であるが、積雪が多いことを踏まえ安全に努める必要がある。

閉会中の常任委員会活動

各常任委員会は次に係わる所管事項の調査を閉会中（11月）に行う事になった。

▽総務住民常任委員会
①美深育成園の改築
②独居老人対策

▽産業教育常任委員会
①鳥獣被害状況及び美深町鳥獣被害防止対策協議会設置について

②公営住宅について
③児童生徒の学力指導の現状と対策
④旧恩根内小学校の利用状況



改装になった体育館

意見書を 提出しました 地域の声を国へ

道路の整備に
関する意見書

北海道は、全国の22%を占める広大な面積に179の市町村からなる広域分散型社会を形成し、道民の移動や物資の輸送の大半を自動車に依存しており、道路は道民生活と経済・社会活動を支える重要な社会基盤であるが、冬期の厳しい気象条件に加え多発する交通事故、自然災害時の交通障害や更新時期を迎え

る老朽化する道路施設など、道路をとりまく課題は多い。

こうした中、地方財政は全国的な景気の後退とともに、税収が落ち込むなど、さらに厳しさを増しており、今後は、国と地方の適切な役割分担のもと、道路整備に必要な予算を確保するよう要請する。

提出者 菅野勝義
賛成者 南 和博
越智清一・諸岡 勇

林 寿一・庵 宗訓

提出先 衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・総務大臣・財務大臣・国土交通大臣

森林・林業施策の
早急かつ確実な
推進に関する意見書

近年森林に対する国民の期待は地球温暖化の防止、国土の保全や水源のかん養はもとより、生物多様性の貢献など多様化するとも

に、低炭素社会づくりに進めるため、木質エネルギー利用を含め、木材利用の拡大に対する期待も増大している。

こうした厳しい状況を踏まえ、昨年公表された「森林・林業再生プラン」に基づき、国民の期待に添えていくため、今後、森林整備を着実に推進するとともに、森林の有する多目的機能の持続的発揮を図りながら森林資源を適切に活用し、森林・林業・木材産業の活性化による山村の再生を図るよう要望する。

提出者 諸岡 勇
賛成者 菅野勝義
南 和博・越智清一

林 寿一・庵 宗訓

提出先 衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・財務大臣・農林水産大臣・国土交通大臣・文部科学大臣・経済産業大臣

議会改革特別委員会 経過報告

経過報告

美深町議会は、昨年3月18日の定例会で、今求められる議会のあり方、委員会制度等について調査研究し本町議会の改革を進め活性化に資することを目的として「議会改革特別委員会」を設置し以来毎月委員会を開催してきた。

8月4日には、議会改革に関する協議で長側から町長、副町長、教育長、及び各課長、議会側から議長、副議長、特別委員会の正副委員長の出席で協議された。

① 反問権の付与は、定例会の一般質問における論点争点を明確にするためのもので町長、教育長に反問権を付与することとし、今般教育委員長、農業委員会会長、代表監査委員等の行政委員の長まで付与の拡大は必要なし。

提出資料と同様に提出する。

提出過程において議会側からの提言は受けにくい。

③ 議案の公開と傍聴者への提供部数は傍聴席に5部用意し不足の場合は共有して閲覧することとする。

④ 常任委員会所管事務調査で役場の機構が大課制になり、所管が「ねじれ」が生じ、結果事務調査に支障がある。結論では、議会の要請を受ける。



傍聴者閲覧用の議案資料

第17回の会議を9月15日①議会基本条例について②初議会前の議員懇談会に係る会議規則一部改正について③議案の公開と傍聴者への提供・部数について等の協議をした。

議会基本条例の制定の委員会協議では第16回からの継続審議となり必要・積極な意見、必要ない・慎重な意見の要点記録を参考に議論がなされた。

私からのメッセージ

字報徳 近野 剛 さん



早いものでこの美深町恩根内に来て5年になるうとしています。

私たち夫婦は、酪農で新規就農がたくて道内の色々な所で実習をして就農地を探していました。そして縁があつてこの美深町恩根内に平成20年11月に就農することができました。

就農してから今年の11月で丸2年が経ちますが、毎日忙しい日々を送っています。

就農するとすべての仕事が自分の責任になります。

研修生の時とは違い、牛の管理、餌の管理、畑の管理等全て自分達でやらなければいけません。それは面白くもあり、そしてとても大変な事です。酪農だけではなく他の仕事もそうだと思います。



早いもので…

が、うまく行く事ばかりではなくダメな時は本当に仕事に嫌になります。それでもやっていけるのは、家族と周りの方々のおかげだと思っています。夏の忙しい時期には、何かと手助けしてもらったり、子どもの面倒を見てもらったりと感謝しています。まだ、自分達の事で一杯ですが、次にくる人も少しでも何か手助けできるように早く一人前になれるよう家族で力を合せてこの恩根内の地で生きていきたいと思えます。

美深町、そして恩根内の皆様これからも私たちをよろしくお願いします。

町民の皆さんと議員との懇談会を行います

日時 11月26日(金) 1回目 13:30から

2回目 18:00から

場所 文化会館COM100 大会議室

テーマ 少子高齢化とまちづくりについて

————— 多数の方の参加をお待ちしています —————

編集後記

今年の夏は連日の猛暑で「暑いですね」があいさつ言葉であった。

また、集中豪雨も多量な農作物の作柄にも少なからず影響を及ぼしたが、明るい話題として、若い農業者が結婚し家庭をもたれたことは大変喜ばしく仲の良い家庭を築かれることを祈る。今回の「私からのメッセージ」では、酪農に挑戦する方にメッセージをいただきました。

今後の議会活動として、平成21年度の決算を特別委員会で審議をし、平成23年度からの第5次総合計画の樹立に向けて全員で努力をしたい。

広報編集委員会委員
委員長 諸岡 勇
副委員長 村山 勲
今泉常夫・菅野勝義
越智清一・齊藤和信